ロックウェル推薦図書　２０１６年７月
『スコーレＮＯ．４』　宮下奈都

今月も夏休みの読書を想定して小説の紹介です。六月は、男性作家による小五男子のひと夏の冒険を描いた作品でした。七月は、女性作家による一人の女性の十二歳から二十代半ばまでの成長物語です。

「スコーレ」はギリシャ語で、英語の「スクール」の語源です。ここでは人生の段階（の場）ととらえておきましょう。恋愛、家族、仕事が主なテーマになっています。

スコーレＮＯ．１　中学

津川麻子（あさこ）は平凡な容姿の中学一年生。一学年違いの小六で美少女の妹、七葉(なのは)と、無邪気なのか計算づくなのか、かわいいキャラの小一の妹、紗英（さえ）との三姉妹です。

この章は、舞台や登場人物の紹介と、麻子のはかない初恋が中心です。

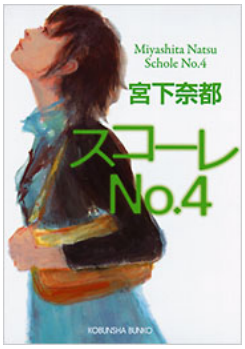
文章の特徴は、心理の「分析的な文章」と、心情を感覚的に表現した「心象風景」にあります。

例えば、容貌が明らかに違う姉妹は、性格も対照的だとみられています。しかし、二人は仲が良く、考えや気持ちがほとんど同じなので、七葉が言えば麻子は言葉にする必要がないのです。「家族にはたぶん通じていたと思う。だが、それ以外の人には、七葉の言葉は七葉だけの表現として伝わり、それだから七葉は素直に自分の意見を伝えられる子、逆に私のほうはおとなしい子、地味で目立たない子、と映ることを私はちゃんと知っていた。」

また、麻子がサッカー部の少年に恋した瞬間の描写、「風が止まった。野球部の掛け声が消えた。」など、高度な文章テクニックが駆使されています。

スコーレＮＯ．２　高校・大学

麻子は共学の公立高校に進学しました。私立か公立か、女子校か共学か、家族や同級生のいろいろな考えが書かれています。



『スコーレ No.4』
宮下奈都 みやした・なつ
光文社文庫 571 円＋税

麻子が高一のとき、八歳年上の従兄弟である慎が近くの大学に院生としてやってきて、ふたりは恋人同士のような土曜日を送ります。だが、ますます美しくなり奔放なふるまいも目立ってきた妹の七葉の大胆な行動に麻子は打ちのめされるのです。

まるで妹から逃げるように、家からは通えない距離の大学に進んだ麻子は、地味な性格が男子の気を引いて、複数の男性から言い寄られます。

スコーレＮＯ．３　就職・出向

貿易商社に就職した麻子でしたが、いきなり取引先の高級靴店に出されます。土日に休めない変則勤務のせいで大学時代からの恋人とも疎遠になりますが、仕事に目覚めるのでした。靴を愛してやまない店長や店員たちとは一線を画し、人（客）本位の仕事を目指します。この章はお仕事小説のお決まりのパターンですが、よくできています。

スコーレＮＯ．４　本社勤務

二年間の店員を経験して本社の皮革部に戻った麻子は、繊維部に同行してヨーロッパに靴の買い付けに行くことを命じられます。麻子は国立大学英文科卒で英検一級なのです。

この章はシンデレラストーリーで、仕事もうまくいき、理想的な恋人も現れます。この章だけなら軽薄な印象を受けますが、ＮＯ．１から麻子の人生をみてくると、幸せをつかむ姿に喜びを感じます。

家族

本作品は家族小説でもあります。

東京近郊の中都市で二代目として骨董品店を営む父と、豊かな才能を妻や母親として生かす母の教育が、麻子の靴店、皮革部勤務の成功につながりました。中学時代に母の人生を「好ましくないしあわせ」と評した麻子でしたが、今は理解できます。他にも紹介したい場面がありますが、「手入れの行き届かない古家ほどみすぼらしいものはない」と、子どもたちに掃除をさせる祖母を挙げておきます。

この「推薦図書」は今月で一〇三号です。六、七月の二作品はそれほど有名ではありませんが、わが推薦図書のベスト二〇に入れたいと思います。

ロックウェル新大駅前教室　長谷川玲